

	観 点				
学年	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1年	・進んで活動ができるように、児童の興味・関心のある題材を選ぶ。 ・日常的に読書の習慣を付けるために読み聞かせなど実践を積み重ねる。 ・読書学習司書教諭と連携を図り、読み聞かせした本や、学習したことに関係のある本を教室に揃え、読書への関心・意欲を高める。 ・音読カード、ひらがな・カタカナ・漢字練習などの家庭学習を継続的に取り組む。	・「話すこと」に慣れさせるために、朝の会や授業で発表の場面を多くする。声の大きさを意識できるように働きかける。 ・「聞き方名人」「話し方名人」を掲示して、意識化を図る。 ・相手にとって気持ちのいい聞き方ができるように姿勢や態度面の意識化を図る。 ・国語の授業の中で声を出す活動を多く取り入れる。その際、適切な声の大きさを意識させる。 ・「～さんと似ていて」「～さんに付く足して」などの前置きをおいて、関連させながら話すことを意識させる。 ・ペア学習を多く取り入れ、自分の意見を友達に話すことに慣れさせる。	・順序を整理して書くことができるように、書き方のモデルを示したり、友達との交流から学び合わせたりする。 ・「書くこと」に慣れさせるために、年間指導計画の「書くこと」に組み入れて、意図的・計画的に指導していく。	・場面の様子に気付いたり、想像を広げたりして読む力を付けるために、動作化、劇化などの表現活動の場を設定する。 ・楽しんで読書ができるように、読み聞かせをしたり、好きな本の紹介をしたりする。	・助詞や助音・促音などの正しい表記を身に付けるために、視写や聴写の指導を取り入れる。 ・新出漢字の学習は、「ため」「はね」「はらい」、書き順を丁寧に指導し、文字の形に気を付けて練習させる。 ・書字活動の度に、鉛筆の持ち方・姿勢・運筆を確認する。 ・早口言葉や言葉あつめ、しりとりなどの言葉遊びを通して語彙を増やしていく。
2年	・毎週金曜日の朝読書や、図書の時間に読み聞かせを行う。読書学習司書によるブックトーク等を通して読書に親しませる。 ・音読カード使って、毎日の家庭学習でも音読を継続させていく。 ・読み聞かせした本を教室の本棚に置いておいている。読書カードを活用し、読書への意欲を高める。	・朝の会や日常的にスピーチ活動を行い、話し方、聞き方を身に付けられるようにする。話すポイントを明確にし、話型を示すことで話しやすくする。聞き手は、スピーチをしっかりと聞いて、質問や感想を行う。 ・大事なことを落とさないで聞くことができるようにするために、クイズなどを取り入れ、活動を工夫する。	・「今週のニュース」として出来事や心に残ったことの記録を書くことで、書くことへの親しみにつながっていくようにする。「いつ」「どこで」「誰が」「どうした」などの文章構成を意識させる。 ・作文を書く際、文の構成を考える手立てとして、「書くこと」の計画の「書くこと」に組み入れて、意図的・計画的に指導していく。	・物語文では、積極的に動作化を取り入れ登場人物の気持ちや場面の様子を読み取る。 ・文章の内容と自分の経験や考えと結びつけて考え、発表し合うことができるようにする。 ・音読カードを使って、読みに上達ポイントを押さえながら練習させる。 ・おはなしクイズをつくり、友達と問題を出し合うことを通して、お話を楽しく読み深めさせる。	・学習した漢字を使って文章を書くことができるように「漢字の広場」をもとにした継続的な指導をする。 ・新出漢字を学習するときには、漢字の成り立ちや覚え方、間違えやすい箇所などを合わせて指導し、興味をもって取り組めるようにする。 ・新出漢字は毎日一字ずつ学習し、家庭学習でも習った漢字の練習を行う。 ・漢字の5問テストを行う。 ・「はね」「ため」「はらい」に気を付けて丁寧に文字を書き習慣を身に着けさせる。
3年	・日頃から文章に慣れ親しめるように、朝学習や図書の時間など読書の機会を多く取る。 ・図書館や読書学習司書との連携を図り、単元の学習につながるように本を準備する。 ・学級の授業で教科書の音読の時間を多く設けるとともに、家庭学習でも音読の練習を繰り返す行う。	・朝のスピーチを取り入れ、話すこと・聞くことの力を身に付けられるようにする。 ・グループ活動を取り入れ、発表、発言の機会を多くする。また、活動の最後には質問や感想を伝え合うようにする。	・作文を書く際、文の構成を考える手立てとして、「書くこと」の計画の「書くこと」に組み入れて、意図的・計画的に指導していく。	・登場人物の心情に寄り添ったり、場面の様子を想像したりしながら読むことで、読み取ることができるようにする。また、登場人物と自分を重ね合わせて考える経験を積ませる。劇化や動作化、音読を取り入れながら読み取りを深めていく。 ・段落相互の関係を適切に読み取らせ、書かれていることの中心を明確にして読ませる。 ・問題文の意図することを的確に捉え、答えられるように線を引かせたり、囲ませたりする。 ・毎日音読の宿題を出す。	・国語辞典を日常的に活用する習慣を身に付けさせ、言語に慣れ親しむ環境を整える。 ・宿題などで繰り返し漢字学習を行い、小テストを適宜取り入れ、定着を図る。
4年	・常に読書に親しめるように、学級文庫や団体貸出の本をそろえるなど、教室環境をととのえておく。 ・辞書を活用して語句の意味調べをして語彙を増やしたり、季節の言葉を集めたりする。 ・図書館との連携を図り、単元の学習に関連した本を準備する。 ・音読カード、漢字練習などの家庭学習を継続的に実施する。 ・ICT機器を活用して、動画や写真、挿絵から関心をもたせる。	・話型を示し、伝えたいことを明確にして話すことができるようにする。 ・話し合いでは相違点や共通点を意識させる。 ・メモをとりながら話の重要な所に意識して聞く習慣をつける。 ・初めに話の中心を述べ、そのことに合わせた理由や相手にとって分かりやすい事例を挙げるなど話の構成を考えられるようにする。	・書くこととすることの中心をはっきりさせ、理由や事例を挙げて書かせるようにさせる。 ・「はじめ、中、終わり」の文章の構成を意識し、段落を正しくつけて書く習慣を付ける。 ・相手や目的意識を明確にさせてから、書く習慣をつける。	・話の中心や場面の様子がよくわかるように工夫して音読する。 ・登場人物の心情に寄り添ったり、場面の様子を想像したりしながら読むことで、文章の要点を考えながら読み取ることができるようにする。 ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方の違いについて気付かせるために、話し合い活動の時間を設ける。	・意味の分からない言葉は、国語辞典、漢字辞典を引く習慣を身に付ける。 ・新出漢字の学習では、送り仮名や終筆を正しく書くことができるようにし、漢字テストや漢字ノートの練習で定着を図る。
5年	・ペア学習やグループ学習を取り入れ、友達との話し合いから学ぶ活動を多く取り入れる。 ・日頃から文章に親しめるよう、読書学習を週一回取り入れる。 ・語彙を増やしたり、文から情報を得たりする経験をさせていく。 ・デジタル教科書や動画など、ICT機器を活用して、学習への意欲を高める。	・スピーチをしたり、聞いたりする機会を設け、話の中心に気を付けて聞く経験を増やす。 ・インタビューなどの言語活動を通じて、相手や他の人の話を聞き、自分の考えとつなげて話すようにする。 ・話し合い活動では、話の中心に気がつけて聞き、自分と友達の考えの相違点や共通点を明確にして話せるようにする。	・主題や書くことの目的を明確にさせてから書かせる。 ・「はじめ、中、終わり」の簡単な構成メモを作って、段落をつけて書く習慣を付ける。 ・文章を書く上で必要な基礎的な知識を身に付けさせるよう、視写を取り入れる。 ・文章を書く際、自分の考えをまとめる時間を設け、事実と考えを区別して書けるようにする。 ・書いたものをお互いに読み合い、より良い文章を推敲できる力を付けさせる。	・読み取ったことを基に、自分の考えを広げたり、深めたりするために、友達と考えを交流する時間を設ける。 ・文章の要点や要旨を考えながら読み取ることができるように、キーワードにサイドラインを引かせる。 ・文章や段落の構成を捉えることができるように、デジタル教科書などを活用して可視化する。 ・読み取ったことを友だちと伝え合い、読みを深めさせる。	・意味の分からない言葉は、国語辞典を引く習慣を身に付ける。 ・主語や述語など、文を構成する要素に着目できるようにする。 ・様々な活動や日常の中で、既習の漢字や表現を使う習慣を付ける。 ・大田区漢字検定等を中心に漢字ドリルや小テストを繰り返し行い定着を図る。 ・毎日音読の宿題を出して、漢字の読みを高めていく。
6年	・デジタル教科書や拡大資料などを活用し、児童が分かりやすい教材を多くする。 ・並行読書を意図的に仕組んで、読むことの関心を高めていく。 ・単元の導入では、学習のねらいとゴールイメージを示して、見通しをもって学習できるようにする。 ・音読カード、漢字練習、家庭学習を継続的に取り組む。	・話を最後まで聞けるように、相手が伝えたい中心は何か、相違点や共通点は何かを意識しながら話し合いをさせる。 ・多様な考えを出し合い、比べ合うことができるように自分の考えをもち、まとめる時間を設けてから話し合い活動を行う。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、自分や友達の考えを発表したり、取り入れたりする場を多く設ける。 ・友達との交流のあとに、自分の意見を加除訂正するなど、さらに高めようとする時間をとる。	・自分の考えが明確になるように段落相互の関係などに注意して構成（はじめ・中・終わり、尾括・頭括）を考えることを指導する。 ・説明文の単元では、学習課程を工夫して、読み取ったことや、筆者の工夫を取り入れて意図的に書く活動を取り入れていく。	・読み取ったことを基に、自分の考えを広げたり、深めたりするために、ペア・グループでの話し合いや発表の場を多く設ける。 ・読み取りまとめる力を高めるために、重要語句やキーワードにサイドラインを引かせながら読み取ることができるようにしたり、最後まで丁寧に読んだりすることを定着させる。 ・説明文では、段落や構成など、文のまとまりを考えながら読む指導を展開していく。	・漢字の定着を図るために、漢字ドリルや小テストを利用して、正しく書けるよう繰り返し学習を行う。 ・語彙力を高めるために、辞書は常に机の横に置き、分からない言葉が出てきたら辞書を引く習慣を付ける。 ・毎日音読の宿題を出して、漢字の読みや語彙を高めていく。音読の内容は教科書に限らず、新聞記事などいろいろな活字にふれさせるようにする。